



「『みやざきの教育』アシスト事業」講演会 初開催！

10月30日（月）に県教育研修センターを会場として、「企業の力を教育に！『みやざきの教育』アシスト事業」講演会を開催しました。県内のアシスト企業の担当者だけでなく、県外企業からの参加者も含め、約70名が参加しました。次世代人材育成に資する「職場体験」や「出前授業」についての先進的な取組や考え方について、TV会議研修を踏まえたワークショップを通して、熱心な議論が繰り広げられました。

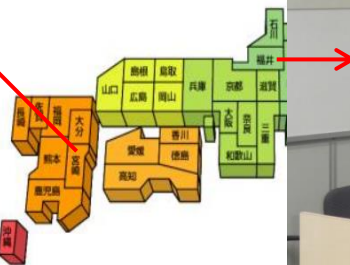
第1部 TV会議

「次世代を担う人材を育てる教育支援 ～職場体験や出前授業をどう行うか～」

福井県 清川メッキ工業株式会社 専務取締役 清川 卓二 氏

清川メッキ工業株式会社は、製品の小型化による省資源、省エネ化を進めており、極小物質へのメッキ処理を可能にした「ナノめっき」を開発し、平成27年に科学技術分野賞技術部門において文部科学大臣表彰を受賞した。また、若手社員が中心となって子どもたちに行う出前授業「めっき教室」や特色ある職場体験などは、キャリア教育の先進事例として注目を集めている。

※第2回キャリア教育アワード優秀賞受賞。キャリア教育の外部人材活用に関する調査研究協力者会議委員（文科省）。



【TV会議を行う 清川 卓二 氏】

❖ 清川専務のTV会議における講演の概略（※紙面の関係上、職場体験の部分についてのみ記載）

ポイント① 子どもたちの職業選択における意識が利己的である。

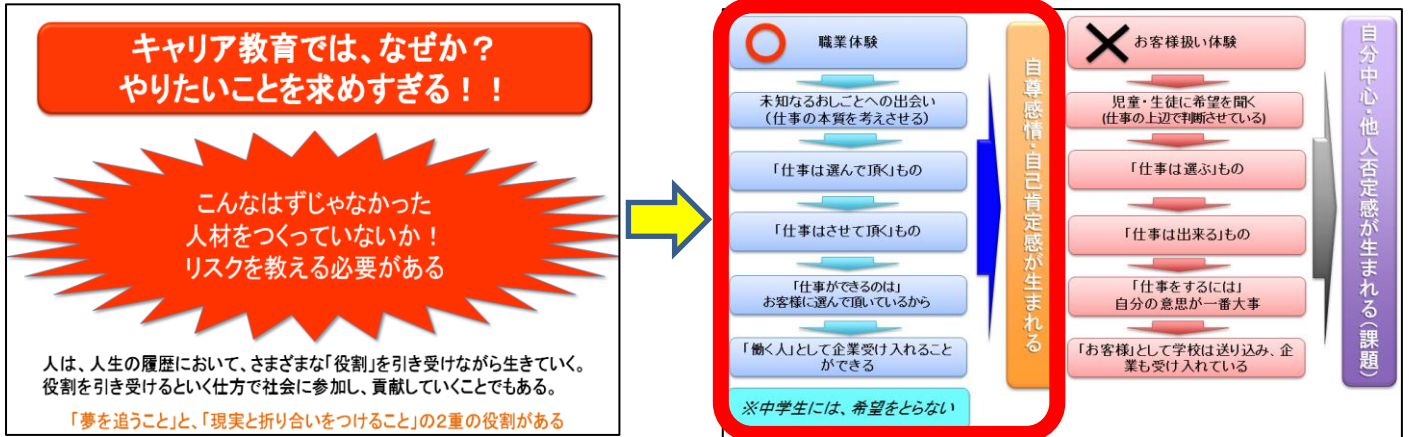
中学生に職業選択についてのアンケートを行うと、多くの生徒が利己的な視点で職業選択をしていること、職業ではなく会社選びを行っていることが分かった。本来、働くということは、「誰かの役にたつ」ということであり、その視点をもつ子どもたちが少ないことに危機感を感じている。多くの学校では、職場体験学習を行う際、一人一人の生徒に希望アンケートをとっているが、この希望アンケートも「自分が」という利己的な視点を助長しているように思える。子どもたちの無限の可能性を広げるためにも、**未知の職業の素晴らしさ（世間の役にたっているという事実）**を発見させるような取組としていてもらいたい。



- #### 将来職業を選ぶ時に、どのようなことが大切か？
- 1位 自分の強みを活かせること**
 - ・「好き」と「強み」は違う！
 - ※ 自分の強みが活かされれば人から必要とされる。
 - 2位 誰の役に立ちたいかが決まっていること**
 - ・ 誰の役にも立たないことは、仕事にならない！
 - ※ 誰の役に立ちたいか？で、行動が決まる。
 - 3位 嫌いでないこと**
 - ・ 好きであることがベストであるが、好きである必要はない！
 - ※ 嫌いでなければ、「やってみる」ことができる。

ポイント② お客様扱い体験から、本当の職場体験への転換が必要である。

新卒入社後に離職する若者の多くは、自分の利己的な視点（自分の好きな仕事、自分に合っている仕事）職場の実態とが噛み合わずに、「自分のやりたいことではなかった→こんなはずじゃなかった」と感じている。職場体験においても、生徒の希望を重視すると、第1希望でない職場に行った子どもたちは、お客様扱い体験となり、こんなはずじゃなかったと感じてしまう。自尊感情や自己肯定感を育むためには、仕事の本質を考えさせるような本当の意味での『職場体験』が必要である。



第2部 ワークショップ 「企業による今後の教育支援について ～職場体験の在り方について～」

第1部のTV会議の内容を踏まえて、キャリア教育に携わる行政担当者とアシスト企業担当者とが協働して、職場体験の在り方について意見交換を行った。職場体験における問題点、そしてその改善策はどうあればよいのかについて、熱心な議論が繰り広げられた。



今後は、企業の側からも、職場体験学習を受け入れる場合に、どのようなプログラムが有効であるのかについて、学校の先生方としっかりと連携・協議していきたいと思っております。

【ワークショップのようす】

参加者のコメント（一部）

- ㊦ 「好き、楽しい」が大事にされ、子どもたちがお客様になっており、先生も子どもに気を遣っている。先生も生徒も、企業に迷惑を掛けたくないという点が一番強い。よりよい学びにするためにも、学校として子どもたちにどのような力を付けたいのか、受入企業に何を求めているのかをしっかりと伝えてほしい。
- ㊧ **職場体験のねらいを明確にし、子どもたちに働く苦労だけでなく、喜び・魅力を伝えていくべきである。**体験前に、体験先の企業の実態（職業の内容）について、ある程度の事前学習をしていただきたい。体験後のお礼の手紙も画一的で、ほぼ同じ内容である。生徒の生の声が企業に伝わるような工夫も必要。

担当者の眼

教育支援課 教育支援担当

AI(人工知能)の活躍が話題となっている昨今であるが、科学技術の進歩は著しいものである。大変ご多忙な清川専務の来県は実現できなかったものの、TV会議システムを利用することで、多くの参加者と有意義な意見交換ができた。なお清川専務には、来年5月に県武道館で開催予定の『みやざきキャリア教育フォーラム』の場では、直接face to faceで話していただく予定である。本県における職場体験、インターンシップの一層の充実を図るためにも、ぜひ多くの方々に参加していただきたい。